

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



14



いしはらペット
クリニック院長
(富山市太郎丸本町)
石原 隆

トイレに何回も行っている(頻尿)、トイレに入ったがすぐ出てくる・鳴く(排尿痛)、トイレ以外の所でお漏らしする(異所尿)、おしっこを出口をしきりになめている(疼痛)、おしっこが赤い・赤いものが混じっている(血尿)。これらは、猫がよく見られる膀胱炎や尿道炎の典型的な症状です。膀胱や尿道の内部で細菌が増殖し起こります。そのまま放置すると、結石などで尿道が詰まってしまったり尿道閉塞や腎臓へ広がる腎炎、さらに悪化し腎不全や尿毒症となり、命を奪うこともあります。原因は細菌の感染です。誘因と

猫の膀胱炎・尿道炎



して、食餌性(フードの種類、量)、水分不足(不潔な水、水温、環境ストレス(寒冷、暑熱、不潔なトイレ)、精神ストレス(発情、新規猫の加入、転居、家人の旅行)、個性(肥満、性差)など多くのものが挙げられていますが、明確なものはなく、いくつもの誘因が重なって起こると言われています。治療は、膀胱や尿道の中の細菌を減らす抗生・抗菌剤と疼痛や出血を収める消炎・止血剤などを注射や飲み薬として投与します。それに加え、おしっこの状態を改善

細菌感染で発症 再発も

簡単な採尿方法を紹介します。一つ目は、猫がおしっこの姿勢になつたらきれいに洗った発泡スチロール製のトレーをお尻の下に差し込み受け止める方法です。二つ目は、猫砂に調理用のラップを敷いておきその上にたまったおしっ

するために獣医師の指導による処方食の給与が必要になります。来院の際に、尿の染み込んだ猫砂やペットシートを持参される人が多く見受けられます。診断の決め手となるのは尿検査ですが、これらでは正確な検査ができません。ラップやトレーを使うと簡単に採尿できる。こをスポイトで集める方法です。病状の確認や投薬の変更と中止、さらに処方食の選定にも尿検査は不可欠ですので、病院に行く際にはなるべく新鮮な尿を持参しましょう。膀胱炎や尿道炎は比較的治りやすい病気ですが、再発もしやすい病気です。症状がなくなった後も、獣医師の指導にしたがってください。おしっこが全く出ない場合は命に関わるので、すぐに動物病院に連れて行ってください。